

東日本大震災～東北地方太平洋沖地震～
福島県下避難所における健康支援活動報告

滋賀医科大学医学部看護学科
地域生活看護学講座 金城八津子

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。今回、滋賀県からの支援要請を受け、健康支援チームにおける第10班の一員として参加しました。

滋賀県健康支援チームは、保健師を含む医師、獣医師、薬剤師、栄養士という専門職員から構成されていました。第10班は、薬剤師1名、保健師4名から構成されており、保健師の所属内訳は、県職1名、市町2名、大学教員1名でした。第10班支援チームは福島県下の避難所において第9班の活動を引き継ぐ形で開始し、支援調整をはじめ、健康支援としての保健活動や避難所の衛生管理等を行いました。震災発生後一ヵ月を経過した避難所における支援活動についての報告をいたします。

- ・活動期間：2011年4月14日～19日
(5泊6日、実働3日で他は、移動および活動引き継ぎ)
- ・現地入り手段：滋賀医科大学(バス) 瀬田駅(普通) 京都駅(東海道新幹線) 東京駅(東北新幹線) 郡山(レンタカー) 現地到着
- ・宿泊先：福島県田村郡小野町 旅館
- ・食事：旅館にて朝夕食、昼食はコンビニエンスストアで購入したおにぎり、パン等
- ・活動場所(図1)：福島県小野町(1.小野町町民体育館) 福島県田村市(2.田村市民体育館) 福島県三春町(3.旧春山小学校、図2)
- ・支援対象者の被災状況：沿岸部居住者の避難。地震・津波による家屋被害、放射能被害による自主避難者。家屋被害がなくても、放射能のため自宅に帰れないのが特徴的である。

図1 活動場所(黄色地域住民が避難)



図2 避難所利用されている旧小学校



・活動内容（図3・図4）：

【保健活動】：健康管理（避難者の健康確認、避難所内居住地図及び個票の作成、手洗い・うがいの励行活動、換気、保湿、避難所救護所当番、廃用症候群予防運動への参加）

【衛生活動】：避難所床面の清掃、床マットの清掃、（避難所の衛生状況確認）等

【支援活動内容の調整】：現地支援者（県保健師・市町保健師）と調整しながら、協働して活動を行った。

図3 共用タオル使用禁止を呼び掛ける張り紙



図4 洗面所の衛生管理



・まとめ

今回は健康に関わる専門職としての活動が主となりましたが、避難されている住民の方々から、避難所生活上の苦痛や震災への憤りについて聞く機会がありました。避難所における「避難」は、震災後1ヵ月を超えて「生活」に移行しています。原発の恩恵を受けたこれまでと、帰るに帰れない放射能被害へのやり場のない憤り、見通しのつかない今後の生活への不安を抱えていました。今後、情緒的な支援として、「長期に渡り滞在し、親身になって話を聞いてくれる外部の人」が求められる時期がきていると感じました。短期間滞在型の支援活動だけではなく、情緒面の支援を含めた長期に渡る様々な形体の支援活動が継続して行われることが重要であると考えます。

今回の支援活動は短期間でしたが、昼夜を問わず余震が続く中での活動は予想以上に疲労感があり、支援する自らの健康管理が重要であること、普段の活動が有事の時に活かされることを学びました。

震災後1ヵ月を超えて、自らも被災者である現地支援者の方々の疲弊は大変なものであると感じると同時に、住民の方々の健康を守るという専門職としての使命感に強く心を打たれました。外部からの支援者だから出来る活動を、現地支援者と共に考えて協働して行うことが大切であると考えさせられました。

「がんばっぺ！東北、がんばっぺ！日本！」